パートナーシップで進めるまちづくり町民会議について、町民の方からご質問をいただきました。ありがとうございます。原文のままお伝えします。

中標津町長 西澤雄 一様

連日のご活躍大変ご苦労さまです。

早速で恐縮ですが、先に配布された町広報4月号ならびに施政方針の中で、「町民が町政に参画するシステム」が取り上げられています。 この「町民が町政に参画するシステム」は、いうところの「パートナーシップで進めるまちづくり」として、昨年12月の広報に特集されていますが、このパートナーシップで進めるまちづくりと、町民会議の設置、加えて200万円を超える予算付けなど、広報を見る限りでは、何をどうしようというものなのか良く見えてきません。

例えば、パートナーシップとは何なのか、町民会議は実行部隊かそれとも単に議論し話し 合うだけの場なのか、また、予算は行動を伴う予算か、企画だけの予算か、

更に、町民会議の設置期間を19年3月末までとした理由など、話題になった何点かの疑問を含めてお伺いします。

お忙しいところ申し訳ありませんがご回答いただければ幸いです。

町長より回答させていただきました。

お尋ねいただいた、「パートナーシップで進めるまちづくり町民会議」についてですが、地方分権の進展に伴いまして、自治体(地方)自らが施策を考え実行し、責任を負うという時代を迎えており、この時代の変化に対応するためには、行政だけでなく、住民との協働(パートナーシップ)が必要とされています。

これからのまちづくりは、町民と行政が、相互の理解と信頼の下に、目的を共有し積極的に連携、協力しなければ、地域の公共的な課題を解決することはできないと考えております。

そこで、中標津町のパートナーシップ確立に向け、課題の発見、目指すべき方向性や方針について、町民と行政が共に考え、共に行動し、お互いに理解を深めながら議論する場として、昨年11月に「パートナーシップで進めるまちづくり町民会議」を設置しました。

町民会議は、陳情や要望をお聞きする場ではなく、町民の皆さんに「なかしべつのまちづくり」 について話し合っていただく会議です。

また、審議会のような個別、具体的なテーマについて専門的に審議する会議ではなく、まちづくり全般に関わる事項について、町民の考え方を話し合っていただく会議です。

これまで、5回(毎月1回)開催し、パートナーシップの基礎知識や現状把握、現状把握から問題点や課題の整理など話し合っており、今後は問題点の解決策の仕組みや方法を議論し、中標津らしい、パートナーシップの基本ルールを創っていただき、その結果を平成 19 年 3 月をめどに報告していただくことになっております。

会議では、話し合いを円滑に進めるため、論点の整理や話し合いの方向性についての助言を行うファシリテーター(進行役、水先案内人)を置いています。

ファシリテーターは参加者が対等な立場で意見を述べ、客観的、中立的な立場で民主的に会議が進んでいくよう、様々な工夫を行い、会議やワークショップをスムーズに進行させる重要な役割を担っていただいております。

本年度は、町民会議を毎月1回、全12回開催し、職員プロジェクトチーム会議を5回、勉強会、フォーラムを各1回予定しており、それに伴う、ファシリテーター、講師、コーディネーターの旅費を含めた報償金1,625千円、事務打ち合わせ等の旅費、消耗品、手数料等合わせまして403千円、合計で2,028千円を予算計上し、議会で承認していただいたところです。

今後も「パートナーシップで進めるまちづくり」実現に向け、町のいろいろな場面での議論が 進むことを期待しているところであり、一層のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。